



TITLE:

白浜町(和歌山県)のホシダカラガイ (腹足綱, タカラガイ科)の最近の記 録

AUTHOR(S):

田名瀬, 英朋; 久保田, 信; 檜山, 嘉郎

CITATION:

田名瀬, 英朋 ...[et al]. 白浜町(和歌山県)のホシダカラガイ(腹足綱, タカラガイ科)の最近の記録. 南紀生物 1999, 41(1): 75-76

ISSUE DATE:

1999-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188274>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

白浜町（和歌山県）のホシダカラガイ（腹足綱，
タカラガイ科）の最近の記録

田名瀬 英 朋*・久保田 信*・樫 山 嘉 郎*

Hidetomo TANASE, Shin KUBOTA and Yoshiro KASHIYAMA: Recent records of *Cypraea tigris* LINNAEUS
(Gastropoda, Cypraeidae) at Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

は じ め に

ホシダカラガイ *Cypraea tigris* LINNAEUS, 1758は、三浦半島以南のインド・太平洋域に分布する大型の巻貝で、潮間帯から水深 20 m 以内に生息する（肥後・後藤, 1993；池田, 1995；渡辺, 1995）。本種は、紀伊半島の南岸に位置する和歌山県西牟婁郡白浜町周辺の海岸においても、その棲息は古くから記録がある（岡本, 1936）。

筆者らは1974年以降、潜水（SCUBA あるいは素潜り）による水深 10 m までの採集、磯観察、海岸への打ち上げ、底刺網の漁獲物等から本種を収集し、観察の機会を得た。これらと神奈川県三浦半島沿岸域のもの（池田, 1995；渡辺, 1995, 1996）とを比較することで、本種の成長に関する知見も得たので報告する。

白浜近海におけるホシダカラガイの記録（1974-1998）

白浜半島先端に位置する京都大学瀬戸臨海実験所周辺の浅海より種々の方法で採集した13個体の観察記録を表1に示した。本種は殻の特徴より、3つの成長段階が判別できる（図1）。採集個体の内訳と大きさは以下のとおりである。幼貝（殻口が広く、殻が薄い）8個体：殻長 51.9 mm～88.2 mm（以下すべて殻長を表示）；未成貝（内外唇の歯状部の形成が弱く、殻が薄い）3個体：84.4 mm～97.1 mm；成貝（内外唇の歯状部の形成が明確、殻が厚い）2個体：98.2 mm, 105.7 mm。

この25年間でわずか13個体の入手であり、本海域では大変個体数が少ない種である。

考 察

三浦半島以南の各地におけるホシダカラガイの採集記録は散見されるが、貝殻の成長段階や大きさについての記述は多くはない。西村（1974, 1980）によると、伊豆諸島の八丈島での最大個体は 110.5 mm、沖縄の最小個体は 69.3 mm、フィリピン最小個体は 51.9 mm との

報告があるのみである（明記されていないが、論旨から成貝の殻長の記録と推察される）。また、池田（1995）は、三浦半島から4個体の幼貝（37.8 mm～85.5 mm）を、沖縄県から1個体の成貝（80.0 mm）を図示している。近年、渡辺（1995, 1996）は三浦半島沿岸に“異常出現”した計129個体を観察し、約50 mm～84.7 mm（N=127）の幼貝と、84.7 mm と 95.8 mm の未成貝を報告しているが、成貝は含まれていない。

今回、筆者らが採集した白浜近海の個体と上記の三浦半島の個体を比較してみると、幼貝と未成貝では大きさの差は認められなかった。しかし、成長段階別でみると、三浦半島の方が圧倒的に幼貝が多い。成貝は白浜からは少なくとも2個体の採集があったのに対して、三浦半島からはこれまで確認された記録が見当たらない（渡辺, 1995, 1996；池田, 1995）。この理由として渡辺（1995）は、三浦半島での“異常出現”は、孵化した幼生が成貝の生息する伊豆諸島の神津島沿岸から海流に乗って漂着するもののそれ以降、一時的に成長はするが成貝にはな

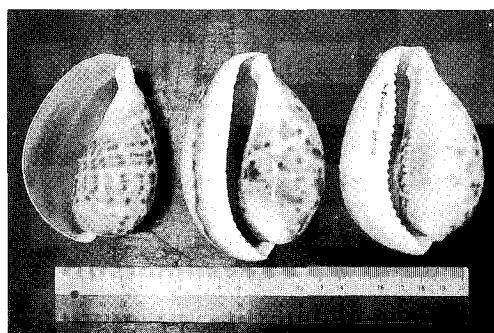


図1 白浜町（和歌山県）近海で採集したホシダカラガイ（腹面）。左：幼貝（表1，No. 2），中央：未成貝（表1，No. 8），右：成貝（表1，No. 11）

Fig. 1. *Cypraea tigris* LINNAEUS from Shirahama (ventral view). Left: juvenile (Table 1, No. 2), Middle: young (Table 1, No. 8), Right: adult (Table 1, No. 11)

* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所（〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町）
Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro,
Wakayama 649-2211, Japan

表1 白浜町(和歌山県)近海でのホンダカラガイの採集記録と観察結果

Table 1. Collection data and observations on *Cypraea tigris* LINNAEUS from Shirahama and its adjacent waters.

個体 番号	採 集 年 月 日	採 集		生 死	殻長 (mm)	殻幅 (mm)	貝 殻		成長 段階
		場 所	方 法				光沢	成 長 状 態	
1	1974	塔島西	底刺網	生	84.4	60.0	有	殻は薄く、内外唇に 歯状部あり	未成貝
2 *	1976. II	臨海北浜	潜水	死	94.3	66.2	有	殻は薄く、殻口広い	幼貝
3 *	1976. II	臨海北浜	潜水	死	96.1	—	有	殻は薄く、殻口広い	幼貝
4	1976. V. 25	臨海北浜	打ち上げ	死 ¹⁾	88.2	—	有	殻は薄く、殻口広い	幼貝
5	1980. XI. 19	円月島西	潜水	生	65.1	40.0	有	殻は薄く、殻口広い	幼貝
6	1985. I. 26	臨海北浜	潜水	死	77.4	47.3	有	殻は薄く、殻口広い	幼貝
7	1987. III. 25	番所崎南	磯観察	死	92.7	63.0	有	殻は薄く、殻口広い	幼貝
8	1987. IX. 1	臨海南浜	磯観察	生	97.1	68.8	有	殻は薄く、内外唇に 歯状部あり	未成貝
9	1990. III. 24	塔島西	潜水	死	105.7	74.0	有	殻は厚く、内外唇に 歯状部あり	成貝
10	1990. III. 24	塔島西	潜水	死	67.1	37.2	有	殻は薄く、殻口広い	幼貝
11	1995. VI. 18	臨海北浜	潜水	死	98.2	66.8	有	殻は厚く、内外唇に 歯状部あり	成貝
12	1998. VI. 7	番所崎南	磯観察	生	51.9	33.1	有	殻は薄く、殻口広い	幼貝
13	1998. VII. 10	臨海北浜	打ち上げ	死	—	—	有	殻は薄く、内外唇に 歯状部あり	未成貝

*桑村・榎山(1976)の採集個体

—: 殻の破損のため計測不能

1) 残存の軟体部に腐臭あり

れずに死亡すると推定している。

和歌山県の沿岸域では、紀伊半島南端に接近して北上する黒潮の影響を受けて、熱帯域を起源とする多くのタカラガイ類の生息が確認されているが、冬の海水温の低下に適応できずに死亡するものが多い。桑村・榎山(1976)は、白浜町の浅海域で、1976年冬季(特に1月下旬)の寒波の折りに、水温が9.8°Cまで低下し、28種1,325個体のタカラガイ類の死亡を確認した。その中には本種の幼貝2個体(94.3 mm, 96.1 mm)が含まれていたが、成貝は発見されておらず、今回筆者らが発見したのが初の記録となる。上記の成貝2個体の大きさは各々98.2 mm, 105.7 mmで、その最大個体は西村(1974)の記録した八丈島の最大個体(110.5 mm)に近い。

ところで、今回発見した2個体の成貝は残念ながら死殻であった(表1)。白浜町は観光地であるため、本種成貝の貝殻が商品として販売されており、この一部が何らかの理由で投棄されたものとの可能性もないわけではない。しかし、今回収集した11個体中4個体が生きていたこと、死亡個体中1個体は軟体部が存在していたこと(表1, No. 4)、貝殻の表面は光沢を保ち傷が無いこと、幼貝や未成貝は市販されていないこと等から、すべての採集個体は現地で成長したものと判断した。

以上のことから白浜近海は、本州沿岸域においてホンダカラガイが成貝まで成長できる北限の海域にあたと推察される。

なお、ホンダカラガイは白浜近海では希少種であることが今回の報告から推定されたが、三浦半島沿岸でも同

様で、1972年～1992年までの21年間の記録は幼貝10個体のみであった(渡辺, 1996)。また、三浦半島で記録された“異常出現”のような現象(渡辺, 1996)は、今後、白浜近海でもおこる可能性がある。

謝 辞

貴重な文献や情報をご教示いただいた、葉山しおさい博物館学芸員の池田 等氏、広島女学院大学の小林直正教授、白浜町の森山惣一氏に深謝いたします。

引 用 文 献

- 肥後俊一・後藤芳央. 1993: 日本及び周辺地域産軟体動物総目録, 693 pp. エル貝類出版, 八尾市.
- 池田 等. 1995: 三浦半島のタカラガイ (1). 32 pp. 葉山しおさい博物館, 葉山町.
- 桑村哲生・榎山嘉郎. 1976: 寒波によるタカラガイ類の死亡. 南紀生物, 18(2), 46-48.
- 西村和久. 1974: タカラガイの最大・最小型. ちりばたん, 8(3), 63-65.
- . 1980: 続タカラガイの最大・最小型. ちりばたん, 11(2), 20-21.
- 岡本 清. 1936: 紀州産寶貝に就て (二). 紀州動植物, 3(1), 12-17.
- 渡辺政美. 1995: 葉山海岸に打ち上がったホンダカラ. 潮騒だより, 6, 4-5.
- . 1996: 三浦半島沿岸に異常出現したホンダカラガイ. みたまき, 31, 4-9.